

1995 年 4 月 27 日木曜日。500 人近い人々は、ストックホルム郊外のとても静かでおちついた部屋に着席している。おのおのが、静かなドキンドキンという心臓の鼓動を身体に感じていた。

突然、大きなドキンドキンとした鼓動が聞こえる。”北欧の男性”の会議は、

スピーカーから流れ出す、心臓の鼓動の絶え間ない音と共に開始された。

開会の辞

スウェーデン副総理大臣兼平等問題担当大臣
Mona Sahlin

我々は、この心臓の鼓動に象徴されるあらゆる事項を、さまざまな方法で、この 2 日間に議論しなければならない。制御出来ない力すなわち思い通りに行かない人生は、大変短い。短い人生の中で私達がしたいと思うものは何かが問題である。我々の先人から、どのように学びたいと思うだろうか？我々の後に続く人々に何かが起こることを望み、我々は彼らの生活をどのようにしたいと思っているのだろうか？

非常にユニークな会議で 70 数%が男性であり、この会議に対し北欧のすべての国からこのような多大な支持を得られ大変幸せである。わたしは、この会議に大きな期待をもっている。しかし会議のユニークさそのものではなく男性間、男性について、平等権について議論することに期待している。

平等は、誤ってそのように定義されることがしばしばあるが、女性だけの問題ではない。平等権は女性と男性の両方に関するものである。我々は、最初に人間で、その後にジェンダーによる違いを持つということを理解する時、平等は始めてあらゆる側面からみて完全となる。産まれながらもっている性のために抑圧されたり憂鬱になったりしないで、我々の時代と我々の世界に人間として生きることは容易なことではない。

これまでのところ女性の役割について、たくさんの講演、議論、著述、思索があるが、男性の役割については大変少ない。我々女性は、女性であるという理由だけで、同じことを考えるグループのようなものではない。幸いにも、あなたがた男性も女性と同様に多様である。そしてわたしは、男性優位社会と男性そのものについての議論を、明確に区別したい。そこには権力構造があり、男性と女性を抑圧する男性的規範が介在している。

男女を比較して女性の方が理想的であるとする場合でも、私は女性のようになった男性を好まない。同様に私は、権力的に強制される女性を好まないし、あるいは男性のようになることも好まない。

い。女性はしばしば強制され、権力の中核的な部分において男性の規範に従うように、強制されていると感じる。わたしは、そのように行動することを望まないし、男性が女性のようになろうとすることも望まない。男性の規範が我々すべてを傷つけることを探し出すなかでたくさんの事に気づかねばならない。たとえば、私は多くの男たちを彼らがどんなに平等であることを説明するために家で手伝っていると表現してきたが、これ自体が気づくべき小さな事例になりうる。だれを手伝うのか?或はしばらく前にラジオで聞いた、最初の子どもがどのように産れたかを誇らしげに説明していた、若い男の場合もある。彼は彼女がどんなにすばしかったかを説明していて、「彼女は戦った、そして勇敢だった。彼女はほんとうの男のなかの男の様に産んだ」と彼が言うのを、わたしは突然聞いた。それは彼が考え付く最も説得力のある表現であった。

私はいろいろな興味ぶかいセミナーのおこなわれているこの会議の議論が、ちょっと単純な言い方であるが、完全な人になるにはどうしたらよいか、また我々の誰もが自分の中に持っている男性性と女性性を発見するにはどうしたらよいかを取り扱うものと思う。男性についての議論は、しばしば妥当でないと思う。まるで男らしさは、悪、暴力、強欲と同義語であるようだった。男性社会が生きるために彼らに強制してきた人生のために、男性はしばしば高い代価をしばしば支払わねばならない状態におかれる。女らしさは、良質で美しいものすべてを意味しているということもまた間違っている。

スウェーデンの経済学者の Agneta Stark は、個人に何かをもたらすのは金か生活であると言った。男たちはしばしば金、給料、キャリアを持っているが、若いうちに死ぬ。女性はめったに金とキャリアを得られない。しかし長生きをし生活と子どもに密接にかかわる。もし金と生活と両方を手に入れようとするならば、男と女の両方をイメージしなければならない。

そういう訳で、私は悪い面といい面の両方について議論することを望む。身体的に強い男は何故妻を打つのだろうか? 何故、性暴力は増大するのであろうか? これ以上きつい肉体労働をしない今日のすべての若者の男性ホルモンはどこにいくのだろうか? そんなにも必要な身体的強さを作るのはどこでであろうか? 父親はどこにいるのであろうか? 何故女性は子どもといつも一緒にいなければならないのだろうか? 政治家として、私はどのように生活を管理し、子どもにどのように対応するかいつも質問される。同じ質問は男性の政治家にはめったにされない。メディアのなかで、いつ男性にも子どもがいるように扱われるだろうか?

スウェーデンの少年、少女はどんな理想の少女あるいは少年を思い描くか説明するように求められた、"As like as berries"(ちょうどいちごのように)という短い出版物がある。この本は、おもしろい。そこではかれらの母親と父親の両方の姿を知ることができる。11歳の少年は、理想の少女は、「彼女は美しく、清潔で、香水のかおりがし、大きな胸で、足の毛を剃っていること」と語った。彼はたった 11 歳なのに! 10 歳の少年は、「私の理想の女性は、掃除、洗濯、料理、皿洗いがじょ

うずでなくっちゃ。決してなまけものはだめだし、一日中テレビを見ていることはだめ、だけど僕はその仕事の半分は自分の仕事だからするよ」と言っている。

この会議の良い面は、まさしく男である男の側面と、女性の役割両方を担いうる余地を作ることである。強くて平等ですばらしい北欧の男たちは、世界の他の多くの場所で男たちが得たものごとくすべてもひけをとらない程、北欧に平等のパラダイスをつくるために多くの点で貢献してきた。

出産・育児休暇をとる父親たち、息子たちだけでなく娘たちにとっても重要である父親たち。男性と女性について我々が話す時子どもについても話そう。一緒に子どもの保護をしなくっちゃいけないの？ もしお互いに飽きたとしても、それはいいだろう。しかし子どもとは決して離れてはだめ。

ここ、スウェーデンには今日「父親の月」という非常にすばらしい先進的な事例がある。しかしそれについてはどんなに議論されたことか！ スウェーデンの社会全体の労働規範は、父親が仕事を休んで一月間家に居ることに猛烈に反対した。一方でここ何年もの間ヘラジカ獵のために職場を空けることに反対もなかったのに。また軍隊の一ヶ月招集も全く問題にされてこなかった。父親が、父親であるという理由で家にいなければならないということは、危険であるように思われた。会社の経営者が言うには、我々は 20 歳で働く必要があるが、すべての人が両親の育児休暇を取することは非常に困難である。それってどういうこと？ 私たち女性は、決して、すぐ職業に就くことができる 20 歳の子どもを産むというように効率よくはいかない。

人は小さい子どもを持たねばならないし子どもが病気の時母親と父親の役割を果たさなければならない。

どうしたら親であることと仕事を両立することが出来るかその労働条件について議論しよう。家族だけでなく労働市場の変化も必要である。

最後に何人かの尊敬するひとについて話すことにしよう。私はこれまでさまざまな方法で強力かつ重要な尊敬される人物になった多くの男性に出会った。7 人のスウェーデンの賢者がわたしの尊敬する人となった。

Göran Lindberg は、ここスウェーデンの警察学校の校長であり、非常に男らしく困難な仕事をしている。彼は両親の育児休暇を取った男たちに賞を与え、その賞は仕事上有利となる。両親の育児休暇を取る誰もが、休暇が終わったときに仕事に戻りやすくするために、コンピュータ、ファックス、電話を家庭にとりつけられる。

Andreas Carlgren、彼はホモセクシュアルであることを思い切って世間に公表した、若くて強いスウェーデンの政治家である。これこそが真の男である！

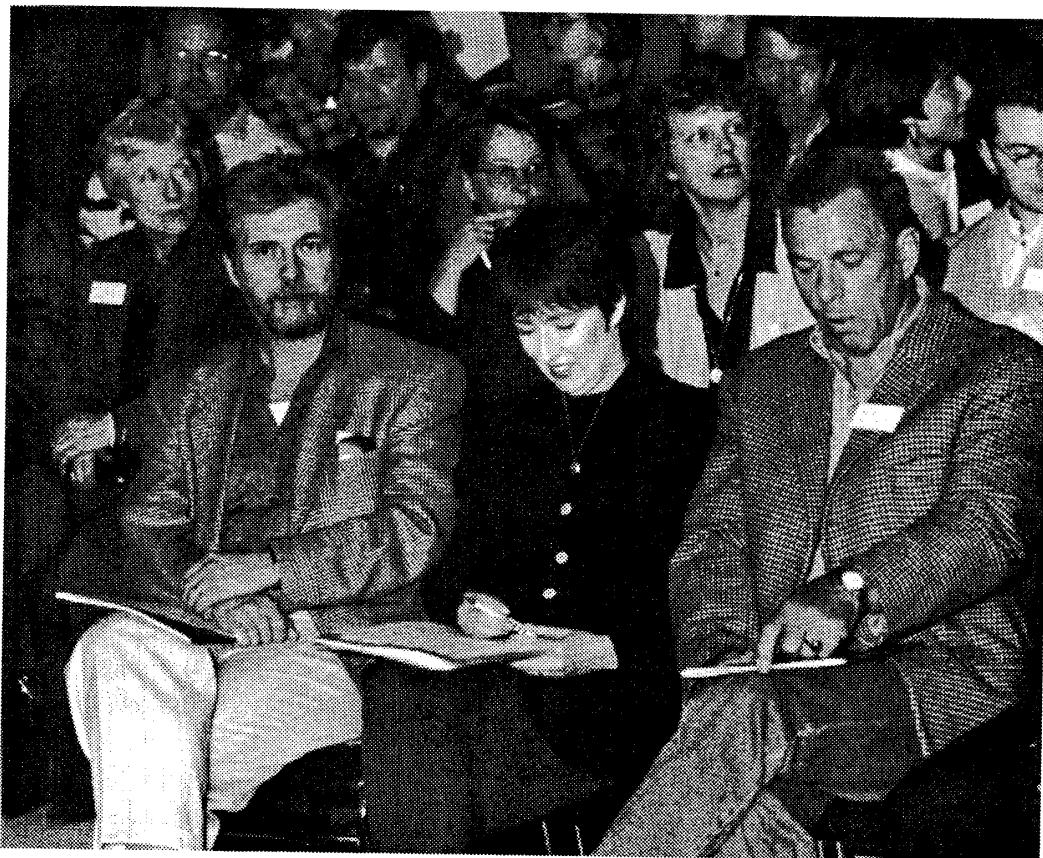
Sören Gyll、ボルボの副社長の彼は、高給とりということではなく、圧倒的に男性優位の会社で、意識的に女性のリーダーを育てているという理由から尊敬している。

次に尊敬するのは、無名の底辺を支えている人たちのことである。仕事を求めている 2 人の小さな子を持つ女性と、2 人の小さな子を持つ男性とを思い浮かべてごらん下さい。女性には 2 人の小さな子がいてたくさんの時間を取られるので、ボスは男性の方を選ぶ。その男性は、感謝して職に就き、さらに両親の育児休暇をとる。これこそがヒーローである！

Ingvar Carlsson、スウェーデンの首相は私の政党のリーダーというだけでなく、ひとつの試みとして、女性と同様に多くの男性とも一緒に政府を作り上げたという理由で取り挙げた。

Bengt Westerberg は、スウェーデンの前平等問題担当大臣で、今日の男女両性にとって主要な政治的問題として、平等権をきわだたせることに寄与した。

Tommy Svensson は、スウェーデンのフットボールナショナルチーム組合長であり、ウェイトリフティングと Karin Boye の詩を読むことでチャージしている。たぶん、ハンガリー戦で敗れた昨日は、その詩を忘れたのだろう。一方、トップの運動選手は、外面だけでなく内面も強くなければならぬことを示す努力をしてきた。これらは男性であり女性である私たちが人として自分たちについて抱いているいくつかの考えである。またこのユニークな会議にもいくらかの希望をもっている。北欧とその外の世界中で男性と女性の役割についてのこの議論を継続することができることを、あらゆる方法で我々は確認しなければならない。



(藤野彰子)

セミナーの準備をしている Mona Sahlin (中央)